

CMI 株式会社

本社:東京都港区三田三丁目14-11 鳥和三田ビル8階

お問合せ電話:+81-3-6453-9601

人造黒鉛負極材料一体化工場の建設計画

黒鉛化の稼働率と生産拡大は、エネルギー消費強度と消費総量の二重制御措置及び 2021 年第 2 四半期（4～6 月）から続く電力規制措置で大幅に抑制されている。そのため人造黒鉛負極材料コストの約 50%を占める黒鉛化の価格が高騰している。

人造黒鉛負極材料メーカーがもともと外部委託だった黒鉛化工程を、コスト高緩和のために自社で行うようになって黒鉛化工程を取り入れた一体化生産ラインを建設する動きがでている。

10 月 25 日、中国宝安集团股份有限公司（本社：広東省深セン市）は、同社傘下の貝特瑞新素材集团股份有限公司（本社:深セン市。以下、「貝特瑞」）が山西君東新エネルギー科技有限公司（本社：山西省長治市）、山西奥宸材料科技有限公司（本社：山西省陽泉市）と共同で山西省長治市潞城経済技術開発区で人造黒鉛負極材料一体化工場（7 万トン/年）の建設を計画すると発表した。

3 社は共同出資方式で資本金 3 億元で山西瑞君新素材科学技術有限公司（仮社名）を設立する。貝特瑞がそのうちの 1.53 億元（51%）を出資する。

工場の建設は 2 期に分けて行い、第 1 期の規模は 4 万トン/年、投資計画は 18.4 億元（約 330 億円）、今年 11 月に工事建設を開始する予定である。第 2 期は 3 万トン/年の計画で、2022 年 10 月に竣工予定である。

10 月 25 日このニュースが発表された時点では、三者は合弁会社の設立向けに調整中で正式に発足されていないが、関係者の話では、この新規工場の建設計画は国の政策、地方の環境対策、市場環境等に制約される恐れがあるとのことである。

情報源：石墨盟、騰訊網、金融界より整理作成。